

「念願の喫茶店を開店。地域に ホッとする語り場をつくりたい」

元函館市職員

小林元昭さん（62歳）

平成21年3月定年退職

昭和23年北海道出身、道立函館中部高等学校卒業。昭和48年南茅部町（平成16年、函館市に編入合併）役場入庁、総務部、福祉部、教育委員会などを経て平成21年3月退職。平成22年6月、喫茶店「HOT STATION珈夢」オープン。統計主事、社会福祉主事、調理師、小型船舶操縦士2級の資格を持つ。



——退職後のライフプランはいつ考えられましたか？

私は20代の頃からオーディオが趣味でした。そんなこともあって、定年後は趣味を生かした喫茶店を開きたいという夢を持ち始め、定年退職の15年くらい前から具体的な構想を描き始めました。

とはいっても、私の地元は漁業で生計を立てている小さな町です。そんな場所ですら果たして喫茶店に来てくれる方がいるだろうかと心配でしたが、「地域にホッとする語り場」をつくりたいという思いもあって開店することを決めました。

——喫茶店を開くために、具体的にはどのような準備をされましたか？

私たち夫婦には4人の子どもがいて教育費が必要だったことから、退職前の時点で貯金はほとんどありませんでした。そこで、定年時の退職金を元に将来の生活費と事業費に振り分ける資金計画を立てました。

喫茶店の経営にあたっては、趣味の域では到底長続きしないことが予想されました。経営を成り立たせるためには、単価が安いコーヒーなど飲み物だけでなく軽食も提供しないと採算が取れないことがわかり、50歳のとき調理師免許を取得しました。さらに調理の自信をつけるため、定年退職後の1年間、調理学校の和洋調理基礎コースにも通いました。

喫茶店となる建物は、自宅の敷地内に

山小屋風の木造2階建て（12坪）を新築しました。総建築費は約1000万円。建築材の塗装にかなり費用が掛かることがわかり、内壁・外壁を家族総出で塗装することで出費を抑えました。

現役時代から着々と準備を進め、定年退職から1年3カ月後の平成22年6月、喫茶店「HOT STATION珈夢」を無事オープンさせることができました。オープン後は妻と二人三脚で切り盛りしています。私は飲み物担当、妻は軽食担当としているため、どちらかが病気をすると経営が成り立たなくなります。ですから、お互い普段から健康には留意しています。



喫茶店の外壁は自分たちで塗りました



自慢のオーディオ機器を備えた
喫茶店で生ライブを催すことに



●1日のスケジュール

6:30～9:00	起床・朝食・自宅周辺の環境整備 や菜園づくり
9:00～11:00	喫茶店清掃・開店準備 ※ボランティア活動等がある場合は この時間をあてる
11:00～18:00	喫茶店業務
18:00～22:00	夕食（晩酌）・テレビを観た後に喫 茶店の経営
22:00～	就寝

※店の定休日は月曜日。その他、地域活動などで臨時休業
することもあります。



「HOT STATION 珈夢」の外観

妻とは国内外の旅行に出かけることも
あります。共に働くパートナーとして仕
事が順調にいくためにも、日々の生活を
楽しくするよう努めています。

その他、手作り工芸の講習会やミニラ
イブなど「気張らないイベント」を企画
し、喫茶店経営に変化を持たせていま
す。

—— 定年退職後の選択肢として、再就
職の話はなかったのですか？

実は定年1年前に外郭団体への再就
職話がありました。しかし、私は喫茶店
経営一筋で考えを曲げず、それが開店に
向けた自分への励みにもなりました。再
就職話に迷わなかったといったら嘘にな
りますが、夢の実現のためにはブレない
姿勢が大切だと実感しました。

—— 何か地域活動はされていますか？

これまでの経験を生かし地域に貢献し
たいという気持ちから、一人暮らしの高
齢者をサポートする活動を始めました。
社会福祉主事の経験を基にした介護保
険の相談をはじめ窓ふき、草刈りまでさ
まざまな要望に応じていく活動で「長寿
生活応援隊」と名づけています。今のと
ころメンバーは同じ職場だった仲間と2
人だけで、実績は年間20件程度ですが、
今後拡大していければと考えています。

その他、喫茶店内の2階のスペースを
活用して「小学生の寺子屋」も開いてい
ます。元教員のボランティア仲間3～4

人とともに、各新学期が始まる前の1週
間、子どもたち一人一人に苦手の教科を
教えています。

—— 最後に現役世代へのメッセージを
お願いします。

私は昭和23年生まれで団塊の世代での
退職でした。ここ数年、徐々に給与の減
額が進むなか、退職金は確実に目減りし
退職金危機の話さえ聞かれています。雇
用期間延長など後輩たちには大変な時
代の到来が予測されるでしょう。

そのような状況下で第二の人生を自分
のものにするためには、少しでも若いう
ちからライフプランを本格的に考えるこ
とが有効な手立てとなるのではないでし
ょうか。



喫茶店の2階スペースでは小学生を対象に寺子屋も開いています